

## 本展について

第4回受賞者による本展は、それぞれの個展として「I WAS MADE FOR LOVING YOU」と「Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる」というタイトルを冠しました。隣り合うふたつの展覧会は制作に対する関心もアプローチも大きく異なり、それぞれが独立したものでありながら、展示室内での鑑賞者のふるまいが作品の一部となるという共通点を持っています。鑑賞を通じて自身に向き合うことで、動物を含む他者との関係性や、社会的に期待された役割などに目を向けることにもなることでしょう。

### ■ サエボーグ「I WAS MADE FOR LOVING YOU」

主な表現手段であるラテックスのボディスーツによるパフォーマンスは、回を重ねるごとに内容をさまざまに変容させ、新たなキャラクターを生み出し続けてきました。これまでのパフォーマンスを土台に作り上げる本展では、作品の軸となってきた人間と動物の関係性というテーマの中で、「ケア」の視点に立った作品を発表します。展示室の中では鑑賞者がパフォーマンスの一部となることで、観る側が時として観られる側に回るような、美術館の展覧会の構造を利用した仕掛けを試みます。



「Ultra Unreal」展示風景（シドニー現代美術館、2022）  
撮影：アレックス・デイヴィス



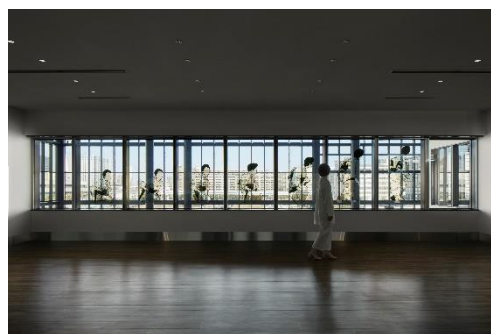
「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代『House of L』」  
公演風景（愛知県芸術劇場、名古屋）  
撮影：蓮沼昌宏

### ■ 津田道子「Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる」

近年強く関心を寄せている「身体性」について追求する中で、自身の幼少期に、ビデオカメラが家に来て最初に撮影されたホームビデオに収められた家族の出来事から着想した新作を中心に、映像装置が組み込まれたインスタレーションを発表します。撮影者の視点がレンズ越しに収められたどこにでもありそうな出来事の再演は、家族という最小単位の社会による、きわめて個人的な記録を起点としながらも、集団の中での人々の立ち位置やシステムへと、その領域を広げていきます。



《東京仕草》2021/2023「ICC アニュアル 2023 ものごとのかたち」  
展示風景（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、2023）  
撮影：木奥恵三  
画像提供：NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]



《東京仕草》2021「Back TOKYO Forth」展示風景  
（東京国際クルーズターミナル、2021）  
撮影：Akira Arai (Nacása & Partners Inc.)

「身体」をひとつの起点とする両者は、作品制作と身体表現の実践を行き来することで、その独自の表現を発展させてきました。会期中には、展示のほか、パフォーマンスなどのプログラムを通じて、展示空間と鑑賞者の身体を架橋するような体験へと誘います。

## 関連イベント

### アーティスト・トーク

TCAA 2022-2024 選考委員と出展作家が選考を振り返りながら本展出展作品や今後の展開について話します。

日時： 3月30日(土) 14:00-15:30 (開場 13:30)

出演： サエボーグ、津田道子、ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ (クンストインスティテュート・メリー ディレクター／TCAA 2022-2024 選考委員)

モデレーター： 塩見有子 (特定非営利活動法人アーツイニシアティブトウキョウ [AIT] ディレクター／TCAA 選考会運営事務局)

会場： 東京都現代美術館 地下2階講堂 (江東区三好4-1-1)

※入場無料・要事前申込・先着順／日英同時通訳あり

※その他、各種イベントを開催予定です。申込方法等の詳細は、3月上旬にウェブサイトでお知らせします。

## モノグラフ

作品画像に加え、作品や制作についての作家のテキスト、専門家による寄稿を掲載した作品集を作家ごとにバイリンガルで2024年7月に発行予定です(非売品)。また、発行後、ウェブサイトでの公開のほか、希望者への郵送配布を行う予定です。配布方法等の詳細はウェブサイトでお知らせします。